



学校だより

伸びゆく子

令和3年10月29日
横浜市立中沢小学校
11 月 号

「つたえよう わかりあおう つながろう」の実現

副校長 柴田 耕治

9月の分散登校期間には、様々な制限の中、オンライン朝の会など、離れていても「つながり」を生み出す手段としてICT活用の可能性を感じることができました。10月4日(月)に全面再開されてから約一か月。学校では、緊急事態宣言解除後のガイドラインに基づき、感染拡大防止対策を行いながら、学級・学年を越えての活動も展開できるようになりました。子どもたちの生き生きと活動する姿が随所に見られるようになり、お互いを感じながら伝え合い、分かり合いながら活動を進めていくことの楽しさ、対面のコミュニケーションの大切さを改めて感じています。

10月上旬のある日、6年生のAさんが職員室を訪れました。

「失礼します。6年〇組のAです。副校長先生、全校児童の人数を教えてくださいませんか。」

わけを聞くと、全校のみんなに1本ずつ「旗」を作って届けたいとのことでした。説明するAさんの様子から、「いいこと思いついちゃったんですね。」と言わんばかりの興奮が伝わりました。私が「子どもだけで、724人分ですよ。大丈夫ですか。」と聞くと、Aさんは「やります!」と強い意志を示しました。Aさんの学級では、「全校を応援でつなぐこと」を目指して活動していたのです。

6年生の他の学級でも、「がんばっていることを動画で伝え合っつながろう」「全校のスローガンをまとめよう、めあての花をさかせよう」「みんながつながれる開閉会式を目指そう」など、それぞれに個性のあるテーマをもち、今までの運動会にない取組に挑戦を始めたところでした。

6年生のBさんと階段ですれちがいました。Bさんは友達と一緒に先を急いでいる様子です。「忙しいですね、何の時間ですか。」と声をかけると、Bさんは振り返って、「中沢タイムです!」と笑顔を見せました。「頑張ってくださいね。」「ありがとうございます。頑張ります!」そんなやり取りの中で、「やりたいことがあるということは、人をこのように美しく輝かせるのだな。」としみじみ感じる事ができました。

子どもたちは、学校生活の中に切実でやりがいのある問題を見つけ、仲間と共に、自分たちの考える最適な解を目指して行動し始めています。その先には、当然、意見のちがいも生じます。予想外の事態も訪れます。目指す理想と現実とのずれや自分の思いとは異なる葛藤を味わうかもしれません。しかし、その「ちがい」「予想外」「ずれ」「葛藤」などの壁は、「つたえよう わかりあおう つながろう」の学校スローガンを本当の意味で実現していくチャンスになるはずです。わたしたちは、分散型で実施する学年ミニ運動会を「つながり」の感じられるものにしようとする今年度の挑戦が、子どもたちの成長につながるようしっかりと見届け、価値付けていきたいと思えます。

地域の皆様には、残念ながら子どもたちの活動をご覧いただく機会を設けることができず、申し訳ございません。子どもたちにとって、「つながり」の実感が学校からまちへと広がっていったらと願っています。そのためにも、子どもたちが思いや願いの実現に向けて、解決すべき課題を明らかにし、解決にあたって支えとなる人とかわり、ものや情報を活用し、役割を分担し協働的に取り組む具体的な活動や体験を大切にしていきたいと考えています。引き続き、お力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。